

【資料Ⅰ】

教科種目名 ≪国語(書写)≫

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「何を学ぶか」を明確にした「書写のかぎ」が設定されている。また、小学校6年間で学ぶことが系統的に整理され、各単元に配置されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「書写のかぎ」を核とした問題解決型の単元展開が設定されている。また、習得と活用を組み合わせた学習過程が示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第6学年の「文字のいづみ」の「文字に込めた思い」では、人で表した文字や命名用紙が写真とともに掲載され、書いた人の思いが書に込められていることが示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、命の大切さを学ぶ観点から、第2学年の「かんさつしたことを書こう」では、生き物の様子を書いた文と絵が例示されている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、国際化の観点から、世界のいろいろな文字を提示している。同じ文字でも国によって表し方が変わることや文字の特徴などが示されている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、第5学年では、地域に呼びかけるポスター作りが教材として例示されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元の学習の流れが示されており、最後に学習を振り返って話し合う活動が提示されている。 □ 他教科との関連として、第6学年では「総合的な学習の時間」に関連した、「発表のためのポスターを書こう」という題材が設定されている。その中で、書写で学習したことを総合的な学習につなげていく過程が示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して第3学年「実験したことを記録しよう」では、点画の書き方や文字の整え方に気を付けて、読みやすく実験記録を書く学習が設定されている。 □ 伝統文化に関して、各学年の「文字のいづみ『書いて味わおう』」では、古典文学などが硬筆教材として設定されている。なぞり書きの欄や言葉の意味、現代語訳が示されている。 □ 体験活動として第2学年「かんさつしたことを書こう」では、例示されている観察カードから、画の長さや画の向きに気を付けて書かれている箇所を探し、観察カードを書くときに使えるように学習が展開されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年「書写展覧会を開こう」では、小学校の6年間に書写で学んできたことを生かして作品を書くとともに、中学校に向けて、小学校で学んだことをどのように生かしていくのか話し合う学習が提示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第5学年「分かりやすく効果的に伝える書き方」では、分かりやすく効果的に伝えるポスターにするために、文字の配列が改善されていく過程を示したポスターを例に挙げ、必要なことを考え、他の活動に生かしていく学習が展開されている。 □ 児童の学習上の困難さに対して、第2学年「点画の名前」では、手本の漢字の点画と、名前が添えられている点画が同じ色で示されている。また、点画を書く練習する欄が設けられており、「とん」「びた」「すうっ」などの言葉で鉛筆の動かし方が示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第6学年の「組み立て方」では、「①見つけよう」「②確かめよう」「③生かそう」そして「ふり返って話そう」と学習の進め方が4段階で構成されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 毛筆と硬筆との関連として、第6学年の「ひらがな」では、硬筆で「ありがとう」をなぞることで文字と文字のつながりを考えさせた後、毛筆でつながりを確かめながら書く学習の流れが設定されている。 □ 運筆の能力の育成に関して、第6学年「毛筆で書いてみよう」では、イラストや写真、朱墨文字などを取り入れ、児童の興味・関心を引き出すよう工夫されている。 □ 生活に役立てる観点から、各学年とも、2つ「生活に広げよう」という項目が設定されており、第2学年「れんらくちょうを書こう」では、連絡帳の中で、既習事項が使われているところを探して確認し、これから連絡帳を書く際に生かすことが提示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。 □ 判型はAB版で、図版が大きく提示されている。また、第3学年以上では、6年間で学習する書写の内容一覧がインデックスとして設定されている。 □ 「ゴシック体には、見やすく読みまちがにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】
教科種目名 ≪国語(書写)≫

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	学図	書名	みんなと学ぶ 小学校書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、各学年の最後の単元では、「○学年のまとめ」として学習したことを復習するページが設定されている。 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、第6学年のまとめでは、思い出や、印象に残ったことをいろいろなものを書く活動が示され、俳句や短歌、絵手紙などが例示されている。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」を涵養に関して、書写の学習で学んだことを日常生活に生かす具体例として、はがきや原稿用紙、手紙の書き方が掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関連して、第5学年の「感謝の気持ちを伝えよう」では、6年生への感謝を伝えるカードの作成が設定されている。 <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、大文字・小文字のローマ字表が提示されている。実際の写真を取り上げながら、名前や地名のローマ字での書き方が示されている。 <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」に関連して、えんぴつや消しゴムが何の材料でどのように作られているのかが提示されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びとなるように、2人の児童が話し合いの視点を明確にして意見を述べ合う様子がイラストで各学年に掲載されている。 <input type="checkbox"/> 書写の学習で身に付けたことを他教科で生かした具体例が、各学年の巻末にある「書写の資料館」にまとめられている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語能力の育成に関して、第5学年「感謝の気持ちを伝えよう」では、目的や内容に合わせて使う用紙や筆記具を選ぶこと、絵や写真、書きたいことの配置、文字の大きさについて提示されている。 <input type="checkbox"/> 伝統文化に関して、第6学年「生かして書こう」では、江戸時代の子供が使っていた「いろは歌」の教科書が提示されている。「いろは歌」についての説明があり、硬筆で書く欄が設定されている。 <input type="checkbox"/> 体験活動として第1学年「みのまわりのもじをさがそう」では、身の回りで使われている文字を見付ける活動が設定されている。文字を探す場や活動場面が例示されている。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年『行書』で書いてみようでは、発展として中学校に入ったら学習する行書を紹介している。これまでの楷書と行書の書き方を比較しながら、行書の特徴が示されている。 <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成に関して、第5学年「メモの取り方」では、話を聞きながらメモを取る際の、気を付けることが示されている。記録の仕方、間違えた時の訂正の仕方など速く書くための工夫が示されている。また、どんな時にメモを取るのかが例示されている。 <input type="checkbox"/> 児童の学習上の困難さに対して、第3学年「たて画とはらい」では、「木」を白抜き文字にして筆使いが示されているとともに、穂先の通り道が朱書きで書かれ、筆圧の強さが3段階の数字で示されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 第2学年「点や画のつき方と交わり方」では、漢字とイラストが並列に並べられた構成で示され、点や画の「つく」「はなれる」「交わる」が説明されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 毛筆と硬筆との関連として第3学年「画の長短と文字の中心に注意して書こう」では、毛筆で「山里」を画の長短と文字の中心に注意して書いたことが、次のページの「生かして書こう」のコーナーで硬筆学習につなげられている。 <input type="checkbox"/> 運筆の能力の育成に関して、第5学年「穂先の動きと点画のつながりを考えて書こう」では、穂先の動き方を線で示すとともに、「指でなぞって、点画のつながりを確かめよう」が設定されている。 <input type="checkbox"/> 生活に役立てる観点から、各学年、巻後半に「書写の資料館」が設定されている。第6学年には、「都道府県を書こう」や「アルファベットとローマ字」「はがき・原稿用紙」「手紙の書き方」等が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。 <input type="checkbox"/> 判型はB5判で、二文字以上の毛筆教材はすべて半紙と同じ大きさで掲載されており、そのまま手本として活用できるよう設定されている。 <input type="checkbox"/> 「多くの人が使いやすいように、ユニバーサルデザインの観点に立ち、色使いやフォント、レイアウトなどに配慮して作成しました」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名 ≪国語(書写)≫

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	教出	書名	小学 書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第2学年以上に設定されている「学習のまとめ」では、絵や筆の写真などでこれまでの学習がまとめられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、各学年に設定されている「レッツ・トライ」で、学習した知識・技能を活用して、書くことができる場面が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第6学年の「書いて伝え合おう」では、思い出に残る言葉を書こうと提示され、作品例が複数示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、国際化の観点から、第4学年の「世界のこんにちは」では、外国語での「こんにちは」、「世界の文字文化」、「身の回りの外国語」が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、規範意識の観点から、ポスターを読む人にわかりやすく約束を守ってもらえるように書くには、どのようなことに気を付ければよいか3段階の作成手順で示されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第2学年では図書館の人の話をよく聞いてメモをし、カードにまとめる学習が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、書写で使う言葉の例が示されているとともに、2人の児童が書写で使う言葉を使って、話し合う様子が提示されている。 □ 他教科との関連として、第4学年では、学習内容がわかりやすい理科のノートのまとめ方として、書き方のひみつが3つ示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第6学年「レッツ・トライ」の「校外学習のリーフレット」では、用紙全体の大きさを考えて、読みやすいリーフレットを書く学習が設定されている。完成したリーフレットを提示し、読みやすくする工夫が示されているとともに、作成の流れが示されている。 □ 伝統文化に関して、第4学年「レッツ・トライ」では、二つの「短歌」が提示され、文字の大きさと配列に気を付けて書くことが示されている。また、次のページでは様々なかるたが紹介され、防災かるたを作る学習も設定されている。 □ 体験活動として第5学年「工場見学」の「自動工場でのメモの取り方」について提示されている。人から話を聞く際に、あらかじめ聞きたいことをメモに書いておくことや話をしている人の方に体を向けて聞くことなどが示されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年「はってん中学1年」では、中学校で学習する速く書いて、やわらかい書き方として、行書が示されている。楷書と行書について説明されているとともに、「春」を例にして楷書と行書の違いが示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第4学年「学習内容をまとめる」では、読み手に内容がよく伝わる発表資料のまとめ方が提示されている。表と写真を使った資料が例示され、発表資料の作成の流れが示されている。 □ 児童の学習上の困難さに対して、第1学年「にているひらがな」では、「あ」と「め」で同じ運筆の部分が同じ色で示されているとともに、「とめ」や「はらい」を「びたっ」「すうっ」という言葉で明示された画を指でなぞることが提示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第4学年では、「学習の進め方」について3コマ漫画で示されている。前の時間に学習したことを振り返り、自分のめあてをもとに2つの題材から1つを選択し展開していく学習構成となっている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 毛筆と硬筆との関連として毛筆のページに硬筆の学習スペースがある。ためし書きとまとめ書きのスペースがある。 □ 運筆の能力の育成に関して、第3学年「点画のしゅるい」では、筆圧の違いを数字で示したり、穂先の通り道を赤で表し、キャラクターの動きで「始筆」「送筆」「終筆」の仕方が提示されている。 □ 生活に役立てる観点から、各学年に「レッツ・トライ」として、日常生活や他教科での活用場面を想定した例が提示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。 □ 判型はB5判で、低学年は4つのステップ、中・高学年は7つのステップで学習の進め方が統一されている。 □ 「より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」また、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《国語(書写)》

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	光村	書名	書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、2学年以上に、大事なことがまとめて示されている『『たいせつ』のまとめ』が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、各学年に、これまでに学習してきたことを確かめる「〇学年のまとめ」というページが設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第6学年の「自分だけの一文字」では、各分野で活躍している人物が選んだ一文字と、その理由が提示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、多文化共生の視点から、第5学年の「めざせ！新聞記者」でアイヌ文化を紹介する新聞が提示され、多様性を認め合う工夫がされている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、責任感の観点から、東日本大震災の時に「正確な情報で行動を」と呼びかけた、新聞社の取組が掲載されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第4学年では、将来の夢や願いを書く「ゆめに一步、近づこう」が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、第5学年「用紙に合った文字の大きさ」では、文字の大きさを変えた3つの作品例と、作品を見比べての感想を述べている2人の児童の言葉が掲載されている。 □ 他教科との関連として、第5学年では、英語を用いての名刺づくりの活動例が示された「英語で書いてみよう」という題材が設定されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して第6学年では、学年、他教科や日常生活で生かせる言語活動例が配置されており、「書写ブック」としてまとめられている。その中の、第6学年では、「ポスターを作る時の工夫」が設定されている。 □ 伝統文化に関して、第6学年「文学の歴史」では、作品と使われた文字を線で結ぶ内容が設定されている。また、私たちが普段使っている文字について、漢字の誕生から現在にいたるまでの流れが示されている。 □ 体験活動として第5学年「書くときの速さ」では、場面にあった書く速さを考える学習が設定されている。書く速さは場面によって変わることや相手や目的によっても変わることが示されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年「もっと知りたい『発展』」では、中学校で学習する行書について、小学校で学習してきた楷書よりも速く書ける書き方として提示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第5学年「手書きの力」では、「手書きの文字には、活字とは別の力がある」とし、東日本大震災の翌日に新聞社が発行した手書きのかべ新聞から、「どんな印象を受けるだろうか」と提示されている。 □ 児童の学習上の困難さに対して、第1学年「かん字のかきかた」では、線の終わりに気を付けて指でなぞることが提示されている。書き順が色別で示され、「とめ」「はね」「はらい」の部分に「びたっ」「びょん」「すうっ」という言葉とキャラクターの動きが添えられている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第2学年『はらい』の方向』では、矢印の向きとキャラクターの体勢で方向を示した4つの「左はらい」の形が比べられている。その後、「左はらい」が使われている漢字を線で結び付けたり、はらう方向に気を付けて練習したりする学習が展開されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 毛筆と硬筆との関連として第5学年の「めざせ！新聞記者」では、「筆」「筆ペン」「フェルトペン」「ボールペン」それぞれの筆跡が並べて表示されており、筆記具の特徴をふまえて、場面に合わせて使い分ける必要が示されている。 □ 運筆の能力の育成に関して、第3学年「漢字の筆使い」では、筆圧の違いを数字や言葉で示したり、穂先の通り道を赤で表し、キャラクターの動きで「止めるところ」や「はらうところ」をそれぞれ「ぐっ」、「すうっ」などと運筆のこつが書かれている。 □ 生活に役立つ観点から、第6学年では、第1～6学年までに学習したことがまとめられている「書写ブック」が設置されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。 □ 判型はB5判で、「手紙の書き方」などの3項目について、見開きの2ページ分を開いて見られるように配置されている。 □ 「タイトルや『たいせつ』には、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《国語(書写)》

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	日文	書名	小学書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第3～6学年に設定されている「学習を生かして」では、これまでの学習の要素を含んだ文字が教材として提示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、第5学年の「自分の力で」では、「自分で題材を選び、積極的に取り組もう」が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第6学年の卒業前の気持ちを、五・七・五で表した作品例が3点掲載され、意見交換の場がイラストで表示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第5学年の「原稿用紙の使い方」では、「共生するために」という題名の作文が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第6学年の「生活と書写」で解説文付きのエアメールの書き方とアルファベットの書き方について提示されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、「提案文を書いて、話し合おう」では、防災意識を高めようという題名のもと、自然災害に対して自分たちが出来ることを考える学習が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、第5学年「提案文を書いて話し合おう」では、提案文を読みあつたうえで、話し合いをしている様子のイラストが提示されている。 □ 全学年「国語の広場」や「生活と図書」において、他教科での書く場面を想定した言語活動例が題材として提示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して第6学年「五・七・五で、自分の思いを表現しよう」では、「卒業」をテーマに一人ひとりが五・七・五の句を作り、その後クラス全体で意見交換をするまでの過程が提示されている。 □ 伝統文化に関して、第6学年「平仮名と片仮名ができるまで」では、漢字の始まりから、平仮名や片仮名が生まれるまでの流れが、出土品とともに提示されている。 □ 体験活動として第3学年「手紙の書き方」では、社会科見学のお礼の手紙を例として取り上げ、手紙を書くときのポイントを提示している。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年「チャレンジ『行書』をなぞってみよう」では、与謝蕪村の俳句が楷書と行書で並べて例示され、なぞり書きができるようになっている。「行書」についての説明が提示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第3学年「本で調べて、学習新聞を作ろう」では、グループで身の回りの生き物の学習について調べ方を考えるところから、学習新聞が出来るまでの過程が提示されている。 □ 児童の学習上の困難さに対して、第4学年「筆順と字形」では、整った字形にするために、直しが必要な「左右」の文字が提示されている。筆順には数字がふられ、同じ画には同じ色が示されているとともに、画と人の体との関係がイラストで示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第6学年「自分の文字と向き合って」では、自分の文字と手本の文字を比べることで自分の文字の課題を知り、今後の学習課題に生かしていく構成となっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 毛筆と硬筆との関連として第6学年「部分の組み立て方」では、「仲間」を毛筆で文字の組み立て方に気を付けて書いた後、「かまえ」のある硬筆で書かれた漢字を4つ例示し、「かまえ」のある文字を書くときに生かせるよう設定されている。 □ 運筆の能力の育成に関して、第2学年「点と画」では、運筆を人のイラストの動きで表したり、筆を止める場所を赤の点で表されている。 □ 生活に役立てる観点から、各学年「生活と書写」というページが設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習設定されている。 □ 判型はB5判で、低学年は3ステップ、中・高学年は6ステップの「学習の進め方」が設定されている。 □ 「カラーユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《国語（書写）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	全学年に「書写のかぎ」が設置されていて、第3学年以上では各単元で左のページで示されてきたものがまとめられている。第5年の22ページ、「分かりやすく効果的に伝える書き方」では、「分かりやすく効果的に伝えるためには、どのようなポスターにしていけばよいか」文章を使って問いかけている。作成例を4点提示し、「配列」の言葉の意味を文章で説明している。配列を整えて書く方法を文章で説明している。
学図	各学年の最後の単元では、「〇学年のまとめ」として復習するページを設定している。第6学年のまとめでは、第6学年で学習したことを練習するページを設置している。最終学年なので小学校で学習したことを生かすページへと進んでいる。
教出	第6学年の36ページでは「六年間で学習したこと」を設定。絵や筆の写真などでこれまで学習してきたことを示している。硬筆で文字の大きさや配列に気を付けて書く練習がある。知っておこう手紙では、手紙の書き方、季節の言葉の例を示している。封筒の書き方を縦、横で示している。
光村	第2学年以上に学習のポイントが「大切」としてまとめられている。第3学年の18ページ、「手紙の書き方」「学習の進め方」を文章で説明。例文と封筒の表面と裏面の例を提示。留意点を赤い字で掲載。文字の大きさが、相手の名前から相手の住所、自分の名前、自分の住所と順に小さくなるのが赤い字で説明されている。
日文	第3～6学年では「学習を生かして」の設置。これまでの学習の要素の含まれた文字を教材として扱っている。また、第5・6学年「自分の力で」では自分で題材を生かし取り組む教材の提示している。筆使いや穂先の向きの説明をしている。めあてを書く欄の設置している。全学年の各単元の終わりに、「できたかな」を設置しており、「できたかな」ではその単元のめあてについて、できたかどうかチェックする欄を設けている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	第2～6学年では書写の学び方について巻頭で説明している。「書写のかぎ」を中心に学習の進め方を示している。見開きのある1ページを例示して何をどう見て学習するか説明している。学習の準備の仕方を写真を使用し説明している。第6学年の24ページでは、学習で獲得した「書写のかぎ」を発表するためのポスターを書くためには「どのような工夫をするとよいかを考えましょう」と投げかけている。ポスターの作成例の提示されており、「総合的な学習の時間に広げる」と書いてある。
学図	第6学年の36ページ、「小学校で学習したことを生かして、作品や資料などを作ってみよう」では、俳句、短歌、毛筆、絵手紙、新聞などを例示されている。また、第3学年の設定されている「学習の進め方」の2つめ、「考えて書こう」では学習内容に対する書写の課題を見つけ、解決策を考えてから練習するという単元構成になっている。
教出	第6学年の28ページ、「小筆を生かして書く」では、文字の大きさと配列、点画のつながり(小筆)。学習したことを自分の好きな俳句で書くときに生かそうとしている。振り返ろうでは3段階で自己評価する欄になっている。
光村	「〇学年のまとめ」というこれまでに学習してきたことをまとめたページがある。めあてを自分で考えて書く欄がある。2段階で自分の評価を書きこむ欄がある。次にやってみようやまとめが設定してある。第4学年の36ページでは、自分の夢についての作文や色紙が例示してある。また、第6学年の19ページ「書写ブック」では、書写の学習で学んだこと、他教科での学習活動に生かせるよう具体的な例が掲載されている。
日文	第5学年の34ページ、「自分の力で」では、「自分で題材を選び、積極的に取り組もう」と文章で説明している。選んだ題材、選んだ理由、私のめあての3点について書く欄を作成している。「前進」という文字の作成例を提示している。また、課題解決型の学習展開が設定されている。「書写の学習で大切なこと」に、いろいろ試してみようを見つけて、予想してそれが正しいかどうか考える、考えたことを説明したりみんなで話し合ったりして考えを深めると書かれている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「文字のいずみ」の文字に込めた思いでは、第4学年人文字、書道展、大凧、第5学年七夕の短冊、大雨の被害地への寄せ書き、宮沢賢治の自筆原稿、第6学年命名用紙などを掲載している。
学図	巻末の「書写の資料館」では、はがき、原稿用紙、手紙の書き方がまとめられている。第5学年の45ページ、「感謝の気持ちを伝えよう」では、卒業する6年生にメッセージカードを送る内容を提示している。「これまでに学習したことを生かして書こう」と提案している。「思い出に残るものにしたいてね」とイオラストの子どものセリフを入れている。レイアウト例を提示している。完成したものを渡すとき、受け取る時のイラストをセリフ入りで提示している。
教出	第6学年の40ページ、「思い出に残る言葉を書こう」では、ポイントやはじめに考えること、書き方のひみつを文例で提示している。下書きの例示している。完成作品例を提示している。また、全ての学年に「学習の進め方」が示されており、第6学年4ページの自分自身の課題を見つけることを学習のスタートに位置付けた課題解決に向かう学習パターンが設定されている。学習の流れがパターン化されている。
光村	第6学年の40ページ、「自分だけの一文字」では、未来の自分を描く時に思い浮かぶ一文字を書こうという教材。活躍している人物の選んだ一文字とその理由を取り上げている。また、第5学年26ページ「手書きの文字」を使って、新聞社が発行した手書きの壁新聞を例示している。東日本大震災の翌日に発行された壁新聞の提示している。貼り出された新聞を見入る人々と、フェルトペンで書いている様子の2つの写真を提示している。
日文	第6学年の36ページ、「五・七・五で自分の思いを表現しよう」イメージマップ図の例示している。「句を作る時のポイント」についてノートにまとめたものの例を提示。完成例を3点提示している。併せて、その思いを文章でも提示している。また、第5学年、自分で学習課題を見つけることが単元の学習のめあてに設定されている。めあてに「自分で題材を選び、積極的に取り組もう」と書いてある。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	第2学年の22ページ、「かんさつしたことを書こう」では、アゲハチョウの幼虫やアリの観察を例として示している。38ページ、「ありがとうを伝えよう」では、野菜作りについて教えてくれた大田さんあての手紙を例示している。第3学年40ページ、「はがきで伝えよう」では、ミカンを送ってくれたおじいちゃんへのはがきを例示している。
学図	第5学年生「感謝の気持ちを伝えよう」では、卒業する6年生にメッセージカードを送ることが教材として設定されている。また、第3学年の「文字の大きさと配列」ではおじいさんおばあさんに向けたお礼状を例として示されている。
教出	第4学年の1ページ、「世界のこんにちは」では、8種類の言語が紹介されている。また、全学年の裏表紙には「障害のある人が書いた絵を掲載し、パラソンアートの活動を紹介しています」と書かれている。
光村	第5学年22ページ、「めざせ！新聞記者」「自然とともに生きるアイヌの豊かな文化」と題名が書いてある。他教科で使える言語活動例としてアイヌ文化を紹介している。第6学年の24ページ、「新聞の書き方の工夫」では「バリアフリー」を題材にしたものを例示している。第2学年の14ページ、「原稿用紙に書くとき」では、音が出る信号機について描いた作文を例示している。
日文	第5学年の41ページ、「原稿用紙の使い方」では「共生するために」という作文を例示している。第4学年の47ページ、「けいじぶつ」の書き方では、学級新聞を取り上げている。学級対抗リレーでは力を合わせチームワーク賞をとったこと、育てた野菜についてなどにふれている。また、46ページの「原稿用紙の使い方」では、野球チームに所属している女子部員の作文が例示されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	第5学年の38ページ、「世界の文字いろいろ」では、英語のラテン文字、中国語の漢字、韓国・朝鮮語のハングル文字、ロシア語のキリル文字、アラビア語のアラビア文字、ヒンディー語のデーバナーガリー文字の例示している。それぞれの文字についての解説文の提示している。参考書籍を提示している。
学図	「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第3学年の46ページでは、大文字・小文字のローマ字表が提示されている。実際の写真を取り上げながら、名前や地名のローマ字での書き方が示されている。
教出	第5学年の30ページ、「委員会のポスター」では、「委員会のポスターを読む人にわかりやすく書くには、どのようなことに気を付ければよいか話し合ってみよう」とめあてを例示している。作業手順を3つの段階に分けて解説してあり、完成例の写真を提示している。ごみの分別を呼びかける美化委員会のポスターが教材として設定されている。
光村	第5学年の26ページ、「手書きの力」では、東日本大震災の翌日に新聞社が発行した手書きの壁新聞が紹介されている。「津波で印刷機が止まったため、新聞用の紙にフェルトペンで書かれた」と書かれている。「正確な情報で行動を！」と書かれている。また、第6学年の13ページ、「伝えるって、どういうこと？」では「分かりやすいのはどちらだろう」と2つの作品例を2作品ずつを用いて、提示されている。
日文	第6学年の40ページでは、エメールの作成例の写真を提示しており、アルファベットの書き方の表の提示している。21ページの「行の中心と字間・行間」「読みやすく書く方法を考えて書こう」では、地球温暖化についての作文を例示している。また、第2学年の35ページでは、外国人との交流を題材にした教材が例示されている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	第5学年の22ページ、「分かりやすく効果的に伝える書き方」では、地域に呼びかけるポスター作りが教材として例示されている。「防災マップを作ろう」「災害にあった時に役立つ場所や危険な場所を書き込んだ地図を作りましょう」と書いてある。
学図	「社会とかかわる力」に関連して、第2学年の36ページでは、えんぴつや消しゴムが何の材料でどのように作られているのかが提示されている。また、第6学年のまとめで設定されている活動では、「私にもできるペットボトルでボランティア」というレポートが例示されている。
教出	第2学年の図書館や、第3学年のスーパーマーケットの工夫を教材として扱っている。第2学年の13ページ、「図書館の人にお話を聞いて聞き取りメモにまとめましょう」と書かれていて、図書館の仕事についてまとめたカードが示されている。第3学年の48ページ、「書いて伝え合おう」では、スーパーマーケットの工夫をまとめた模造紙が掲載されている。
光村	第4学年の36ページ、「やってみよう」では、将来の夢「オリンピックに出ること」「パイロットになりたい」を題材にした教材を配置している。また、第5学年の26ページ、「手書きの力」では、東日本大震災の翌日に発行した新聞を紹介。印刷機が止まったため、手書きで書いた新聞を取り上げている。実際に貼り出された壁新聞を見入る人たちの写真を提示している。
日文	第5学年の36ページ、「提案文を書いて、話し合おう」では、防災意識を高めようという題名のもと、自然災害に対して自分たちが出来ることを考えている。サークルマップの作成例、構成メモの作成例、提案文の例を示している。また、第1・2学年の児童にもわかりやすい学区周辺の避難所をまとめたポスター作りが教材として配置されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	第5学年の33ページ、「5年のまとめ」活動の見通しとして、「小筆・フェルトペン」を使っての作品作り、毛筆(大筆)での作品作りが例示されている。既習事項を生かして工夫しようとして提示している。「ふり返り」として、お互いの作品を見合う場の写真が掲載されている。また、第2～6学年の表紙裏に「書写の学び方」や「イラストマップ」で学習の見通しを示している。単元末の「ふり返ってはなそう」では、友達と話しながら学習を振り返ることが指示されている。
学図	第2学年の6ページでは、書写の学習の進め方について説明している。「考えて書こう」では考える視点を示している。ためし書き、まとめ書きを比べることで話し合う視点を明確にしている。キャラクターがヒントを児童2人で書いた文字を見て意見を述べている。また、第4学年「読みやすく書こう」では、「プログラム」「ノート」「学級新聞」の3つの例を提示している。「読みやすく書く」ための工夫をどうすればよいか、イラストの人物のやりとりを使って話し合いの場を提示している。
教出	第2学年19ページでは「文字を比べて話し合おう」とめあてを提示し、「ためし書き」と「まとめ書き」の2つの作品を見比べて、話し合っている2人の児童の写真を提示している。また、第4学年では、対話の際に使える文例や発言の例が記載されている。発言の例が吹き出しで示されていて、「どの部分が?」「どうなっている?」と「書写の言葉の例」があり、対話する時に使える文例がある。
光村	第5学年の28ページ、「用紙に合った文字の大きさ」では、文字の大きさを変えた3つの作品例を提示。3つの作品を見比べている2人の子どものイラストと、見比べての感想を述べている言葉を掲載している。用紙に合った大きさの文字を書いた作品例を提示している。書く前に、文字の大きさと配置を決めるということを「たいせつ」という項目で文章を使って説明している。
日文	第5学年の36ページ、「提案文を書いて話し合おう」では、完成した「提案文」を見開きの左側のページに例示している。グループで話し合う場をイラストとセリフで表現。サークルマップの作成手順と作成例を提示している。最後に話し合う様子をイラストで提示している。また、第6学年の7ページでは、友達と話し合うことが指示されており、吹き出しの会話が相談の例になっている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	第6学年では「総合的な学習の時間」に関連した、「発表のためのポスターを書こう」という題材が設定されている。その中で、書写で学習したことを総合的な学習につなげていく過程が示されている。
学図	全学年の巻末に「書写の資料館」が設定されている。学年に応じた他教科との関連がされている。第4学年ではノートの書き方、プログラム、学級新聞の書き方が示されている。第5学年では表とグラフを使ったポスターの書き方等が示されている。第6学年ではポスター、お知らせの書き方が示されている。
教出	第4学年の27ページに「レッツ・トライ」「理科ノート」が掲載されている。学習内容がわかりやすい理科のノートのまとめ方として、書き方のひみつが3つ示されている。第3学年「展覧会作品のカード図画工作で生かす」と書いてある。第5学年の社会科との関連で「工場見学のメモ」では、「目的に合った書く速さを知ろう」と学習活動のめあてを提示している。メモを書く前の「話し合い」の場面について、イラストや文章、ヒントなどが提示されている。作成したメモが例示されている。
光村	書写で学習したことが他教科の具体的な場面を例で紹介されている。第5学年の38ページには外国語との関連で「英語で書いてみよう」があり、英語を使用しての名刺づくりで作成例を提示している。また、第4学年の23ページには理科のノートの書き方を示している。ポイントが書いてあり、チェックできるようになっている。第3学年の33ページには社会のノートの書き方の例を示している。横書きの書き方も示している。第1学年の35ページには「横書きの書き方」算数ノートの例がある。数字の書き方が書いてある。
日文	全学年の巻末に学年に応じ、他教科と関連した言語活動が設定されている。第1学年の39ページに「あったことを、スピーチしよう」、第2学年の36ページに「観察記録を書こう」、第3学年の42ページに国語や社会、理科との関連で新聞づくりの学習の流れの説明をイラストや文章で例示している。下書きの作成例の提示している。完成した新聞の作成例の提示している。読みやすい新聞にするためのポイントを2つ文章で説明している。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	第3学年の26ページ、「実験したことを記録しよう」では、点画の書き方や文字の整え方に気を付けて、読みやすく実験記録を書く学習が設定されている。実験記録の例から、わかりやすく書くための工夫を考え、これまでの既習事項を生かして書く流れが示されている。
学図	第5学年の45ページ、「感謝の気持ちを伝えよう」では、木的や内容に合わせて使う用紙や筆記具を選ぶこと、絵や写真、書きたいことの配置、文字の大きさについて提示されている。完成したメッセージカードと6年生に渡すイラストが示されている。
教出	第6学年の16ページ、「レッツ・トライ」の「校外学習のリーフレット」では、用紙全体の大きさを考えて、読みやすいリーフレットを書く学習が設定されている。完成したリーフレットを提示し、読みやすくする工夫が示されているとともに、作成の流れが4つの過程（「テーマを決める」「取材をする」「構成を考える」「リーフレットを書く」「読み返す」）で示されている。
光村	第6学年の19ページには、第1学年から第6学年までに学習したことを、日常生活に生かすための「書写ブック」が綴じられている。第6学年では、「ポスターを作る時の工夫」として、題名や見出しは目立つように大きく書くこと、情報は箇条書きでまとめること、内容を項目ごとに分けることが示されている。
日文	第6学年の36ページ「五・七・五で、自分の思いを表現しよう」では、「卒業」をテーマに一人ひとりが五・七・五の句を作り、その後クラス全体で意見交換をするまでの過程が提示されている。「卒業」をテーマに、①「思いついたことを書き出してイメージを広げる」②「句を作る時のポイントをノートにまとめる」、③「一人ひとり思いを五・七・五で表現し、みんなで鑑賞する」、④「クラス全体でお互いの句について意見交換をする」という流れで学習が展開されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	各学年の「文字のいずみ『書いて味わおう』」では、古典文学などが硬筆教材として設定されている。第1学年の35ページに「花さかじいさん」、第2学年の31ページに「いろは歌」、第3学年の36ページに「俳句」、第4学年の34ページに「百人一首」、第5学年の26ページに「竹取物語・おくのほそ道」、32ページに「枕草子」、第6学年の26ページに「漢詩」、32ページに「漢文」が掲載されている。また、なぞり書きの欄や言葉の意味、現代語訳が示されている。
学図	第6学年の22ページ、「生かして書こう」では、江戸時代の子供が使っていた「いろは歌」の教科書が提示されている。「いろは歌」についての説明があり、点画のつながりに注意して、硬筆で「いろは歌」を書く欄が設定されている。
教出	第3学年以上の「レッツ・トライ」には「文化」というページが設定されている。第3学年に俳句、第4学年に短歌、第5学年に竹取物語、第6学年に枕草子が紹介されている。第4学年の39ページ、「レッツ・トライ」では、二つの「短歌」が紹介され、文字の大きさと配列に気を付けて書くことが示されている。また、次のページではさまざまなかるたが紹介され、かるた大会の様子や郷土かるたが紹介されている。防災かるたを作る学習も設定されている。
光村	第6学年の27ページ、「文学の歴史」では、作品と使われた文字を線で結ぶ内容が設定されている。また、28ページでは、私たちが普段使っている文字について、漢字の誕生から現在にいたるまでの流れが、書き表し方の変化や出土品とともに示されている。
日文	第6学年の16ページ、「平仮名と片仮名ができるまで」では、漢字の始まりから、平仮名や片仮名が生まれるまでの流れが、出土品とともに提示されている。日本に残る最古の文字といわれる「金印」の写真や古墳から出土した鉄剣とそこに書かれてある「文字」の拡大写真が提示されている。世界で使われていた漢字以外の文字についても提示されている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	第2学年の22ページ、「かんさつしたことを書こう」では、例示されている観察カードから、画の長さや画の向きに気を付けて書かれている箇所を探し、観察カードを書くときに使えるように学習が展開されている。
学図	第1学年の1ページ、「みのまわりのもじをさがそう」では、身の回りで使われている文字を見付ける活動が設定されている。教室や体育館など文字を探す場やかんさつやきゅうしょくなどの活動場面がイラストで例示されている。
教出	第5学年の19ページ、レッツ・トライの「工場見学のメモ」では、「自動車工場でのメモの取り方」について提示されている。人から話を聞く際に、あらかじめ聞きたいことをメモに書いておくことや話をしている人の方に体を向けて聞くことなどが示されている。
光村	第5学年の10ページ、「書くときの速さ」では、場面にあった書く速さを考える学習が設定されている。書く速さは場面によって変わることや相手や目的によっても書く速さが変わることが示されている。
日文	第3学年の44ページ、「手紙の書き方」では、社会科見学のお礼の手紙を例として取り上げ、手紙を書くときのポイントとして、「タイミングよく出すこと」「わかりやすく書くこと」「相手を考えて書くこと」「書き終わったら…」の4つが提示されている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	第6学年の36ページ、「書写展覧会を開こう」では、これまでの6年間に書写で学んできたことを生かして、作品を書く学習が設定されている。単元の終わりには、「中学校に向けてこれまでに身に付けた『書写のかぎ』をどのように使っていくか、話し合しましょう」と提示されている。
学図	第6学年の50ページ、「『行書』で書いてみよう」では、発展として中学校に入ったら学習する行書を紹介している。これまでの楷書と行書の書き方を「栄光」という文字で比較しながら、行書の特徴が示されている。
教出	第6学年の44ページ、「はってん中学1年」では、中学校で学習する速くかけて、やわらかい書き方として、行書が示されている。楷書と行書について説明されているとともに、「春」を例にして楷書と行書の違いが示されている。また、小学校で学習した楷書と中学校で学習する行書の練習欄が設けられている。
光村	第6学年の53ページ、「もっと知りたい『発展』」では、中学校で学習する行書について、小学校で学習してきた楷書よりも速く書ける書き方として提示されている。行書の主な特徴が4点示されているとともに、楷書と行書で書かれた「将来の夢」が並んで提示されている。
日文	第6学年の20ページ、「チャレンジ『行書』をなぞってみよう」では、与謝蕪村の俳句が楷書と行書で並べて例示され、なぞり書きができるようになっている。「行書」についての説明が提示されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	第5学年の22ページ、「分かりやすく効果的に伝える書き方」では、分かりやすく効果的に伝えるポスターにするために、改善されていく過程を示したポスター4枚を例に挙げ、必要なことを「書写のかぎ」を参考にしながら考え、委員会など他の活動に生かしていく学習が展開されている。
学図	第5学年「書写の資料館」の中の43ページ、「メモの取り方」では、話を聞きながらメモを取る際の、気を付けることが示されている。記録の仕方、間違えた時の訂正の仕方など速く書くための工夫が示されている。また、どんな時にメモを取るのかが例示されている。
教出	第4学年の19ページ、「レッツ・トライ」の「学習内容をまとめる」では、読み手に内容がよく伝わる発表資料のまとめ方が提示されている。「家から出るごみの種類と量」について表と写真を使った資料が例示され、発表資料の作成の流れや「どのように書くか決める」こと、「書く位置や文字の大きさをたしかめる」ことについて示している。
光村	第5学年の26ページ、「手書きの力」では、「手書きの文字には、活字とは別の力がある」とし、「見出し」「題字」「記事」の部分が示された、東日本大震災のよく日に新聞社が発行した手書きのかべ新聞から、「どんな印象を受けるだろうか」と提示されている。27ページの「手書き文字と活字」には活字について「書きやすさより、読みやすさに重点をおいて、デザインされている」ので、「手書きの文字とのちがいに注意しよう」と提示されている。
日文	第3学年の42ページ、「本で調べて、学習新聞を作ろう」では、グループで身の回りの生き物の学習についてどのように調べるかから、学習新聞が出来るまでの過程が提示されている。写真や棒グラフが使われている学級新聞を例示しながら、読みやすい新聞にするために必要なことが示されている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	第2学年の12ページ、「点画の名前」では、点画の名前を確かめながら練習できるよう設定されている。手本の漢字の点画と、名前を説明している「しょしゃのかぎ」の点画が同じ色で示されている。また、点画を書く練習する欄が設けられており、「とん」「びた」「すうっ」などの言葉で鉛筆の動かし方が示されている。
学図	第3学年の12ページ、「たて画とはらい」では、「木」の縦画と左はらい、右はらいの筆使いが提示されている。1の「確かめて書こう」では、右ページのお手本を白抜きの文字にし、筆使いが示され、穂先には三角定規の図が添えられている。また、2の「考えて書こう」では、穂先の通り道が朱書きで書かれているとともに、筆圧の強さが3段階の数字で示されている。
教出	第1学年の14ページ、「にているひらがな」では、「あ」と「め」のちがうところに気を付けて書くことが提示されている。「あ」と「め」で同じ運筆の部分が同じ色で示されているとともに、「とめ」や「はらい」を「びたっ」「すうっ」という言葉で明示された画を指でなぞることが提示されている。
光村	第1学年の28ページ、「かん字のかきかた」では、「小」や「大」という文字の「とめ」「はね」「はらい」の線の終わりに気を付けて指でなぞることが提示されている。書き順が色別で示され、「とめ」「はね」「はらい」の部分に「びたっ」「びよん」「すうっ」という言葉とキャラクターの動きが添えられている。
日文	第4学年の14ページ、「筆順と字形」では、整った字形にするために、直しが必要な「左右」の文字が提示されている。「左右」の筆順には数字がふられ、同じ画には同じ色が示されているとともに、画が表す人の体の部分がイラストで説明されている。

⑨ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	第6学年の10ページ、②「組み立て方」では、「①見つけよう」「②確かめよう」「③生かそう」そして「ふり返って話そう」と学習の進め方が4段階で構成されている。3つの部分から組み立てられた漢字「湖」を書く際、「斗」「古」「月」の3つに色分けされた欄が設定されている。
学図	第2学年の26ページ、「点や画のつき方と交わり方」では、漢字とイラストが並列に並べられた構成で示されている。点や画の「つく」ところには、割りばしが割られる前のイラストが示され、「はなれる」ところには、割りばしが割られたイラストが示され、「交わる」では交差点のイラストが示されている。
教出	第4学年の36ページでは、「学習の進め方」について3コマ漫画で示されている。前の時間に学習したことを振り返り、これから「土地」を題材として左右の組み立て方を学習するのか、あるいは「岩山」を題材として上下の組み立て方を学習するのか、どちらにするのかを自分のめあてをもとに選択し展開していく学習が設定されている。
光村	第2学年の10ページ、「『はらい』の方向」では、4つの「左はらい」の形が比べられている。矢印の向きとキャラクターの体勢で方向を示している。その後、「左はらい」が使われている漢字を線で結び付けたり、「左はらい」と「右はらい」の方向に気を付けて練習したりする学習構成となっている。
日文	第6学年の6ページ、「自分の文字と向き合っ」では、課題の「やしの実」の詩を書いた後、自分の文字と手本の文字を比べ、友だちと話し合い意見を聞くことで、自分の文字の課題を知り、今後の学習課題に生かしていく設定がされている。

⑩ 毛筆と硬筆との関連を持たせるための工夫や配慮	
東書	第6学年の20ページ、⑥の「ひらがな」では、「ありがとう」をなぞることで文字と文字のつながりを考えさせた後、毛筆でつながりを確かめながら書く学習となっており、その後、再び硬筆で点画どうしや文字どうしのつながりがわかるように「めあて」を書く設定になっている。
学図	第3学年の36ページ、「画の長短と文字の中心に注意して書こう」では、毛筆で「山里」を画の長短と文字の中心に注意して書いたことが、37ページの「生かして書こう」のコーナーで硬筆学習につなげられている。また、単元最後の「ふり返ろう」では、自分や友だちの名前を書く欄が設定されている。
教出	第6学年の10ページ、「用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書こう」では、毛筆で「歩む」を書くときに気を付ける点を考えさせた後、硬筆で「歩む」や「歌う」を文字の大きさを確かめて書く学習が設定されている。
光村	第5学年の22ページ、「めざせ！新聞記者」では、「筆」「筆ペン」「フェルトペン」「ボールペン」それぞれの筆跡が並べて表示されており、筆記具の特徴をふまえ、場面に合わせて使い分ける必要が示されている。
日文	第6学年の10ページ、「部分の組み立て方」では、「かまえ」のある「仲間」を毛筆で文字の組み立て方に気を付けて書いた後、「かまえ」のある硬筆で書かれた漢字「関」「閣」「風」「医」の4つを例示し、「かまえ」のある他の文字を書くときに生かせるよう設定されている。

⑪ 適切に運筆する能力を育成するための工夫や配慮	
東書	第6学年の8ページ、「毛筆で書いてみよう」では、2ページ内に9つのこれまでに学習した点画が取り上げられており、穂先の通るところを朱色で示すとともに、穂先をイメージしたキャラクターを配置するなどして、適切な運筆をするための工夫がされている。
学図	第5学年の21ページ、「穂先の動きと点画のつながりを考えて書こう」では、「あこがれ」を書く際、穂先の動き方を線で示すとともに、「指でなぞって、点画のつながりを確かめよう」と提示しており、適切な運筆をするための工夫がされている。
教出	第3学年の40ページ、「点画のしゅるい」では、筆圧の違いを数字で示したり、穂先の通り道を赤で表し、キャラクターの動きで「始筆」を「とん」、「送筆」を「すうっ」、「終筆」を「びたっ」と提示するなどして、適切に運筆することができるように工夫されている。
光村	第3学年の22ページ、「②漢字の筆使い」では、筆使いに気を付けて「右はらい」を書くことが提示されている。筆圧の違いを数字や言葉で示したり、穂先の通り道を赤で表し、キャラクターの動きで「止めるところ」や「はらうところ」をそれぞれ「ぐっ」、「すうっ」と提示するなどして、適切に運筆することができるように工夫されている。
日文	第2学年の16ページ、「点と画」では、運筆を人のイラストの動きで表したり、筆を止める場所を赤の点で表すなどして、適切に運筆する能力を育成するための工夫がされている。

⑫ 日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮	
東書	各学年とも、2つ「生活に広げよう」という項目が設定されている。第2学年の15ページ、「れんらくちょうを書こう」では、連絡帳の中でかたかなの「止め」「はね」「はらい」「おれ」「まがり」が使われているところを探し、既習事項を確認して、これから連絡帳を書く際に生かすことが提示されている。
学図	各学年、巻後半に「書写の資料館」が設定されている。第6学年の38ページには、日常生活に役立てる態度を育てるための工夫として、「都道府県を書こう」や「アルファベットとローマ字」「はがき・原こう用紙」「手紙の書き方」等が設定されている。
教出	各学年に「レッツ・トライ」として、日常生活や他教科での活用場面を想定した例が提示されている。第4学年の26ページでは、学習内容がわかりやすい理科のノートのまとめ方として、書き方のひみつ①②③が示されている。
光村	第6学年の19ページに「書写ブック」が設置されている。第1学年の「横書きの書き方」、第2学年の「げんこう用紙の使い方」、第3学年の「手紙の書き方」、第4学年の「はがきの表書き」、第5学年の「新聞の書き方の工夫」、第6学年の「ポスターを作るときの工夫」そして「筆記具図かん」が示されている。
日文	生活に役立てる観点から、各学年「生活と書写」というページが設定されている。手紙の書き方、封筒の書き方を示す。お礼状、依頼状の書き方を縦書きと横書きの例が示されている。

4 分量・装丁・表記等

① 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。
学図	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。
教出	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。
光村	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。
日文	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習設定されている。

② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	判型はA B版で、図版が大きく提示されている。また、第3学年以上では、6年間で学習する書写の内容一覧「書写のかぎ」がインデックスとして設定されている。
学図	判型はB 5判で、二文字以上の毛筆教材はすべて半紙と同じ大きさで掲載されており、そのまま手本として活用できるよう設定されている。全学年とも「学習の進め方」が3ステップと振り返りという流れに統一されている。
教出	判型はB 5判で、低学年は4つのステップ、中・高学年は7つのステップで学習の進め方が統一されている。表紙には、墨や汚れに強い撥水コーティングが施されている。
光村	判型はB 5判で、「手紙の書き方」などの3項目について、見開きの2ページ分を開いて見られるように配置されている。強度が高く鉛筆で書きやすい用紙が開発され、採用されている。
日文	判型はB 5判で、低学年は3ステップ、中・高学年は6ステップの「学習の進め方」が設定されている。用紙は再生紙で書き込みに適した用紙が採用されている。手本の文字が映えるように、用紙の白さも重視されている。

③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	裏表紙には、「ゴシック体には、見やすく読みまちがいにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。
学図	裏表紙には、「多くの人が使いやすいように、ユニバーサルデザインの観点に立ち、色使いやフォント、レイアウトなどに配慮して作成しました」と記載されている。
教出	裏表紙には、「より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」また、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。
光村	裏表紙、「タイトルや『たいせつ』には、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています」と記載されている。
日文	裏表紙には、「カラーユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	神奈川県に関連することとして、文字に込められた思いを紹介する資料として、第4学年53ページに「相模原市の『相模の大だこ』」の写真が掲載されている。
学図	神奈川県に関連することとして、身の回りで使われているローマ字の資料として、第5学年49ページに「横浜市内の道路標識」の写真が掲載されている。
光村	神奈川県に関連することとして、町にある文字を紹介する資料として、第4学年29ページに「横浜市のマンホールのふた・標識」の写真が掲載されている。
日文	神奈川県に関連することとして、身の回りには文字があふれていることを紹介する資料として、第5学年2ページに「神奈川県立金沢文庫」の写真が掲載されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			学図			教出		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
	有	有	有	有	有	有	有	有	有
	光村			日文					
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年			
	有	有	有	有	有	有			

③ 一冊ごとの重量 (g)							
発行者名	総冊数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
東書	6	135	126	146	137	137	136
学図	6	112	105	122	133	130	121
教出	6	113	89	124	124	110	110
光村	6	106	90	125	111	116	114
日文	6	118	118	130	130	121	121